

熊本地名研究会（地域文化活動部門）



概

要

設立年月 昭和五十七年十二月

会長 鈴木 喬

会員数 一四〇名

所在地 熊本市江津二丁目三一七

高浜幸敏方

電話番号 〇九六一三六三一七二五

県内

主な活動地

日本の地名は多面体であり、地理、歴史、民俗、考古、動植物、地質、気象などの様々な分野の研究が参与して初めて十分な解説ができるものである。

地名は、大袈褌い年月をかけて生まれてきているが、それを命名したのは殆どその土地に住む生活者である。このことから、地名が生活者の風俗と深く関わり合っていることは否定できない。

熊本地名研究会は、以上のことを踏まえて、地名は人間共有のものであり、広く容易に理解されるべきものでなければならぬ、という理念のもとに、孜孜として研究を続けている団体である。

日常的な研究活動としては、月例研究会での県内地名をめぐる地名研究討論を中心に、地名に関する研究成果を積み重ねており、その業績は顕著である。

また、文化財としての地名の大切さを県民に提唱、特に共同研究「城下町の特性を生かす都市デザインとしての旧地名表示」は城下町熊本の歴史的地名の保存、復活の方策を探ったもので、行政当局や市民に強くアピールするものだった。

また、十周年記念シンポジウム「九州―地名の風土記」では子どもの時から地名に親しむことが郷土愛を深めるものであることに着目し、地名を素材とした小中学生の社会科の公開授業を行うなど次の世代への目配りも忘れない。

熊本地名研究会のこれらの活動は、県内外から高く評価されており、今後も地域文化の振興と発展に果たす役割は大きいものである。

これまでの活動歴

- ・昭和五十七年、熊本出身の民俗学者で日本地名研究所長の谷川健一氏の呼びかけで発足。
- ・月例研究会、読書会、現地探訪、会議発行(年四回)。
- ・年一回、県内外の学者研究者を招いて公開シンポジウムを開催。地方開催を含めて九回を数える。
- ・熊本日日新聞紙上に一七〇回に亘り「地名アラカルト」を連載。
- ・共同研究「熊本県歴史的地名集成」「城下町の特性を生かす都市デザインとしての旧地名表示」をまとめる。